

令和5年度下期の取組結果について

【長寿社会課】

1 現状分析・課題抽出・施策立案

（１）地域の医療・介護の資源の把握（旧ア）

（前年度から継続）本市のホームページに、市内医療介護機関等の情報に関するリンク先を掲載。

（２）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討（旧イ）

- 旭川市在宅医療及び介護連携推進検討会の開催（当会議）

（前回開催）令和5年10月6日

- 旭川市在宅医療及び介護連携推進検討会内にワーキンググループ設置（2月1日～）

令和6年2月27日 第1回目開催（第2回目は4月11日に開催）

（３）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進（旧ウ）

（前年度から継続）医療と介護の連携推進に関するチラシを配付し、普及啓発を行っている。

2 対応策の実施

（１）医療・介護関係者の情報共有の支援（旧エ）

（前年度から継続）「あさひかわ安心つながり手帳」を作成し配付。

【令和5年度実績】 配付数 1,821冊

(2) 在宅医療・介護連携に関する相談支援（旧オ）

（前年度から継続）旭川市在宅医療・介護連携相談窓口の設置（委託先：市立旭川病院）

【令和5年度実績】

相談件数：40件（電話：37件，来所：2件，その他：1件）

医療・介護関係者との連携：49回

地域住民への普及啓発：19回

(3) 医療・介護関係者の研修（旧カ）

企画の要旨	・コロナ禍で分断された「顔の見える関係」の回復 ・ポスト・コロナ時代の在宅医療・介護連携について，考える機会の設定
日時	令和5年9月19日（火） 午後6時30分～午後8時15分
会場	イオンモール旭川駅前4階 イオンホール
対象者	・医療機関職員 ・地域包括支援センター ・介護保険サービス事業所（居宅サービス事業所，小規模多機能型事業所，訪問看護事業所等）
参加者数	101名
開催方法	集合形式
内容	行政説明 H30～現在までの取組「あさひかわ安心つながり手帳」「入退院時の連携の手引」再周知 意見交換

(4) 地域住民への普及啓発（旧キ）

ア 在宅医療・介護ガイドブックの作成・配付（昨年度から継続）

関係者向け研修会や市民講演会等での配付。他にも市有施設や医療機関等への配付，また，歯科医院と調剤薬局にも配付した。

☆令和5年度中の在宅医療・介護ガイドブック配布数 1,070冊

イ 地域住民向けの講座等の開催

(ア) 令和5年10月29日実施分（保健所と共催）

目的・ 人生の最期を住み慣れた地域や自宅で迎えたいとするニーズが高まっていると言われており、
テーマ 本市においても在宅で最期を迎える方が年々増えており、今後も更に在宅医療を望む市民が多くなることが想定される。
市民が将来にわたって安心して暮らし続けていくことができるよう、地域住民に対し在宅医療に関する理解を促進するため、在宅での「看取り」を主なテーマとしてACP(Advance Care Planning)の普及啓発を目的とする。

日時 令和5年10月29日（日）午前10時～午前11時40分
会場 旭川市大雪クリスタルホール国際会議場（大会議室）（旭川市神楽3条7丁目）
講師 医療法人恵心会北星ファミリークリニック 院長 村井 紀太郎（むらい のりたろう）氏
有限会社訪問看護ステーションモモ 代表取締役社長 辻 紀子（つじ のりこ）氏

対象者 一般市民
参加者 119名
開催方法 集合形式
内容 講話
演題 「いつまでも安心して在宅生活が送れるように」

(イ) 令和6年1月21日実施分（市立旭川病院地域医療連携課 在宅医療市民講演会としても実施）

目的・ 市民の方へ自分自身の人生の最終段階を迎える場所等について、どのような希望・意思があるの
テーマ かを考えてみる機会としてもらい、ACPについて理解を深めてもらうことを目的とする。

日時 令和6年1月21日（日）午前10時～午前11時40分
会場 イオンモール旭川駅前4階 イオンホール
講師 市立旭川病院副院長 垂石 正樹 氏

対象者 一般市民
参加者 122名
開催方法 集合形式
内容 講話
演題 『「人生の最終段階」を自分らしく生きるために』

3 対応策の評価、改善

在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携（旧ク）

「令和5年度 上川中部保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会」に参加
（令和5年10月11日ZOOM開催）

事業評価指標項目

別紙 報告事項資料③のとおり

【保健所】

○在宅医療推進検討会の開催

取組項目（旧イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出

必要に応じて開催。直近の第12回旭川市在宅医療推進検討会議は書面開催(令和4年9月)。

※第13回の開催については、現在検討中。

○「在宅医療・介護に係る分析支援データ」の把握

取組項目（旧イ）在宅医療・介護連携の課題の抽出

国保データベース（KDB）システムを活用した集計データのうち、旭川市分を抜粋。在宅医療推進検討会議及び関係部局等と共有し現状について理解を深めるとともに地域の課題について検討する資料とする。

→旭川市在宅医療推進検討会議での資料等とする予定。

○「在宅医療・介護ガイドブック」の配付

取組項目（旧キ）地域住民への普及啓発

関係者向け研修会や市民講演会等での配付

市有施設や医療機関等への配付

○市民講演会の開催

取組項目（旧キ）地域住民への普及啓発

長寿社会課と共同して開催。詳細は長寿社会課分に記載。

○関係者向け研修会の開催

取組項目（旧力）医療・介護関係者の研修

目的 人生の最期を住み慣れた地域や自宅で迎えたいとするニーズが高まっているといわれている。在宅医療を望む本人、家族が安心してその選択をし、実現できるよう旭川市内における在宅医療に携わる医療・保健職等の質の向上を図るとともに、これから携わろうとする者の知識や関心を高める機会とし、将来に向けての人材育成を図る。

テーマ 「在宅医療における認知症ケアと各医療職の役割」

日時 令和6年1月27日（土）午後2時～午後3時40分

会場 旭川市大雪クリスタルホール 国際会議場（レセプション室）（旭川市神楽3条7丁目）

講師 医療法人社団プラタナス桜新町アーバンクリニック 院長 遠矢 純一郎 氏

対象者 ・在宅医療に携わる経験のあまり多くない、あるいは関心のある医師、訪問看護師等の医療従事

参加者 56名

開催方法 集合形式

内容 講話

演題 「認知症から考える在宅医療・多職種連携のあり方」